

令和5年度第2回広島市教科用図書採択審議会会議録

署名者

樽谷 秀幸

会議録調整者

大下 あすか

令和5年7月19日午後1時00分 令和5年度第2回教科用図書採択審議会を広島市教育センター4階第11研修室において開催した。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後1時00分

閉会 午後5時50分

2 出席委員

会 長 樽谷 秀幸

委 員 岡田 泰

委 員 神岡 賢史

委 員 拝崎 美和

委 員 渡部 えり

委 員 堤 友紀

委 員 面家 真紀

委 員 新谷 千尋

委 員 竹内 知世

委 員 青木 信之

副 会 長 松島 真里子

委 員 田村 央子

委 員 寺田 浩子

委 員 加藤 理佐子

委 員 上田 修

委 員 久保 隆裕

委 員 辻 行久

委 員 中川 亜生子

委 員 湯澤 正通

3 事務局の出席者

高田 尚志 指導第一課長

船原 浩司 指導第一課課長補佐

大下 あすか 指導第一課主任指導主事

宮崎 理恵 指導第一課指導主事

唐井 美沙栄 指導第一課指導主事

廣田 大樹 指導第一課指導主事

清水 裕美 指導第一課指導主事

梅田 大造 指導第一課指導主事

高谷 直之 指導第一課指導主事

山本 佳奈 指導第一課指導主事

松下 彰吾 指導第一課指導主事

松本 穂高 指導第一課指導主事

宗本 千鶴 指導第二課指導主事

藤本 充泰 指導第二課指導主事

4 議事日程

(1) 採択審議会委員の紹介

(2) 令和6年度から使用する小学校用教科用図書の調査・研究の経緯及び審議の進め方について

(3) 審議

調査員による調査・研究報告及び審議

答申について

- (4) 課長挨拶
- (5) 諸連絡

5 議事の概要

○ 宮崎指導主事

開会に先立ちまして、一言申し上げます。現在、本採択審議会の皆様、19名の内、18名の出席をいただいております。「3分の2以上の出席」であることから、本採択審議会は成立することになります。なお、委員の皆様の内、久保委員からは、遅れて主席する旨の連絡をいただいておりますのでお知らせしておきます。

○ 宮崎指導主事

本日お配りしております、資料について確認させていただきます。(資料1・資料2)

なお、資料につきましては、会議終了後、回収させていただきます。それでは、令和5年度第2回広島市教科用図書採択審議会を開催いたします。まず初めに、前回欠席された審議会委員の方を紹介させていただきます。面家委員、自己紹介をお願いします。

(委員 自己紹介)

○ 宮崎指導主事

議事に入る前に、前回の会議録の確認をします。資料1の10ページを御覧ください。このことについては、会長に内容を確認の上、了承をいただいております。しばらく時間をとりますので、ご自分の発言内容を中心に内容を確認してください。

(内容確認)

○ 宮崎指導主事

御質問、御意見はありませんか。

(「質問等なし」)

○ 宮崎指導主事

それでは、議事について、会長・副会長の方で進めていただきます。樽谷会長、よろしくをお願いします。

○ 樽谷会長

それではよろしくをお願いします。本日は、小学校7教科の教科書について御審議いただくことになっています。たくさんの教科書を審議することになりますが、限られた時間の中で審議が適正に進むよう努めてまいりますので、委員の皆様には、様々な観点から幅広く御意見をいただき、充実した会となりますよう、御協力をよろしくをお願いします。

○ 樽谷会長

それでは、配付資料の1の1ページにありますとおり、進めていきたいと思っております。まず、教科用図書の調査・研究の経緯及び本日の審議について、事務局から説明をお願いします。

- 大下主任指導主事
失礼いたします。では事務局から、教科用図書の調査・研究の経緯、本日の審議について御説明させていただきます。 ※ 久保委員 入室

(説明)

- 樽谷会長
それでは、ただ今の説明について、御質問等はございますか。
(「質問等なし」)
- 樽谷会長
それでは、「審議」に入りたいと思います。
先程、事務局から説明がありましたように、理科から1種目ごとに教科書の調査・研究報告を調査員の代表からしていただきます。委員の皆様から質問がございましたら、出していただき、報告について確認した後、資料に基づいて審議してまいります。
- 樽谷会長
それでは、理科の調査員から理科の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。
我々委員は、教科書を手に取り、資料2と合わせて目を通しながら、報告をお聞きしたいと思います。また、教科書は数が限られておりますので、前方の大型テレビにおいても、該当ページが提示されます。マーカー等も準備しておりますので、適宜ライン等を引きながら話を聞き、その後の審議に役立てていただきたいと思います。

(調査員代表者 調査報告)

- 樽谷会長
今の報告について質問がございましたらお願いします。
- 上田委員
本市の課題の中に、エネルギー領域の定着に課題があると書いてありますが、その点については、教科書会社により違いはありましたか。
- 宮本調査員代表
エネルギー領域についての全ての単元に違いがあったかどうかという調査はしておりません。今日示させていただいた中で言いますと、「光と音の性質」や「電気の利用」がエネルギーの領域に入ります。このエネルギーの領域というのは、令和4年度に限らず、毎年全国的に正答率が低い傾向にあります。ここにいらっしゃる皆様の中にも、御自身が学生の頃に物理の分野が難しいなと感じられた方もいらっしゃるかもしれません。このエネルギー領域の正答率が低いから、「エネルギー領域だけ」で終わらせるわけにはいきませんし、理科は、自然の事物・事象から問題を見だし、そして予想や仮説を立てて、その解決方法を考えたり、既習した知識と関連させたりして知識を深めていくことが大切になりますので、そういった調査となっています。このエネルギー領域におきましては、電流とか音とか、磁石など、目に見えないものを扱います。その目に見えないものを数値化していく、ということは非常

に難しいところがあります。子どもは、目に見えるものに着目してしまいますから、「電球が明るくなった。」という現象に目がいきがちなのですが、「明るくなった要因は何なのか。」というところに目を向けたとき、「電流の強さが大きくなったのではないか。」という考えが出て、それを電流計を使って数値化をするなどして調べるといったように、児童が量の変化と事象の変化の関係について見方・考え方を働かせて学習できるようにするというところを教師は意識した指導をしていかなければいけないだろうと思います。そういったところを意識した各者それぞれの特徴はあったと思います。

○ 樽谷会長

その他いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

理科の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

○ 樽谷会長

それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。審議にあたっては、本市の実態や児童の状況に即してまとめられた報告書を参考に、全ての教科書の特徴を比較して、本市の児童の課題に対応する特徴がある教科書を決めるということでいかがでしょうか。なお、委員の皆様の見解がまとまらない場合は、挙手により決めたいと思いますがいかがでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

ありがとうございます。それでは、先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思ひます。

○ 樽谷会長

調査報告の方では、九つの観点の内、視点の③、④、⑨。この三つが特に大事なのではないかという説明があったかと思ひますので、このあたりを中心に考えていければと思ひます。

○ 拝崎委員

教科書を見る時間をいただけないでしょうか。

○ 樽谷会長

それでは、少し教科書を見る時間を取りたいと思ひます。

(各自教科書を見る。)

○ 樽谷会長

それでは、しばらく時間を取りましたので、御意見をいただければと思います。

○ 田村委員

神岡委員とも話をさせていただいたのですが、私たちは二つの点で見ました。

一つ目は、本市は結構、どこもそうだと思うのですが、不登校の子どもたちやなかなか授業に参加できない子どももいるかと思っています。そうなったときに、実験などもできなかったけど、家に教科書を持ち帰って見て、家の人と「こういうことを学んでいるんだな。」と知るときのことを観点として見たとき、教育出版は児童の吹き出しにラインが引いてあるので、家の人もぱっと見て、「ここが肝になるんだ。」ということが分かりますし、実際に実験をやらなくても、「なるほど、考察をして、結果から考えるとこういうことが分かったんだ。」ということがぱっと見て分かると感じました。学校図書については、考察のところは、字がものすごく小さくてぱっと入らないと感じました。そして、書いてあることが、「溶ける前の金属と同じか。」といったように問いかけて終わっているのも、実際どうだったのかというところがなかなか分かりづらいかな、と思いました。実際に実験に参加できなかった、あるいは家で教科書を自分の参考書として学びのために使おうとする子どもにとっては、教育出版が優しいのかな、と思いました。

○ 神岡委員

もう1点は、3年生の光の学習のところの表について、資料でいうと8ページです。8ページのところに、実験の結果があります。ここで、教育出版が、明るさについては別で実験をしていて、温度について焦点化している。そして、光を当てる前の温度はどれも13度で一定である、枚数を増やすごとに温かくなっているというように、非常に整理をされているし、こういう整理をする力というのも付けていきたいと考えたとき、教育出版の表し方がよいと思いました。

それから、先程の先生も仰いましたけれども、やはり各教科で見方・考え方を養っていく場合の一番ポイントになる見方をマークして示してくれているというのは、我々教える立場としても「こういうことを子どもたちに意識付けていきたい、こういう見方をさせたい。」ということが意識できますし、そうしたところをきちんと明示されている教科書が、教育出版ではないかと思っています。

○ 拝崎委員

私も同じところで見ました。まずは、見方・考え方にマーカーが引いてあるというところについては、私も同じく教育出版が、「どういった見方・考え方を働かせればいいのか。」ということが、とても分かりやすく示されていて、「子どもたちがこういった考え方をして学習を進めていけばいいんだ。」「どういった見方をすればいい。」ということがとても分かりやすいと思いました。

また、先程仰っていたように、3年生の光のところの結果のまとめ方の表になっている部分が、温度として定量的に示されているというところが、理科の学習を初めにする3年生にとっては、すごく分かりやすくなっているなと思います。併せて考えると、教育出版が一番いいな、と思いました。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。その他いかがですか。

○ 湯澤委員

今、視点③の表のところに焦点を当ててお話がありました。私の意見なのですが、この表の中では、鏡の枚数と温度との関係を見ているのですけれども、そこに明るさというもう一つの要因が入ってきて、鏡の枚数と明るさと温度という三つの関係を考えるような形になっていて、鏡の枚数を増やしていくと明るさも増えて、かつ温度が高くなるというような、実験でいうと独立変数と従属変数というのがあるのですけれども、どれが独立変数でどれが従属変数かと考えますと、本来、鏡の枚数を調査して温度が変わっていくというようなところに焦点を当てた方が分かりやすいのですけれども、そこに明るさという別の条件が入ってきますと「条件の崩落」と心理学で言うのですけれども、どちらが関わってくるのかということが混乱するんですよね。そういう意味では、教育出版は、明るさのことは前の活動で扱っていて、一つ一つ鏡の枚数と明るさの関係、鏡の枚数と温度の関係を取り扱っているのです、一つ一つ進めた方が子どもにとって分かりやすい。そういう意味で、この表だけ見ると、教育出版のやり方が一番シンプルになっていてよいと思いました。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。ここまで御意見をいただいている中では、教育出版の教科書が「よりふさわしい」のではないかと、という御意見が多かったと思うのですが、その点についてはいかがですか。教育出版の教科書を「よりふさわしい」教科書としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」）

○ 樽谷会長

それでは、「ふさわしい」教科書についても、選んでいきたいと思うのですが、そのあたりいかがでしょうか。

（一同、手元の教科書や資料を再度確認し、近くの委員同士で意見交流を行う。）

○ 樽谷会長

先程の調査員の代表の方の報告の中であったのが、例えば視点①について、一つ目の丸については6者ともあるということでしたが、二つ目の丸に関しては、学習のつながりとか振り返りというところで、学校図書と教育出版の2者のところに着目されたように思いました。それから、5ページの視点③のところでは、一つ目の丸は6者ともチェックが入っていたのですが、二つ目の丸については、東京書籍、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の4者により特徴があり、学校図書のところでは、途中で自己評価ができるといったところにも着目している、といった話もあったかと思えます。それ以外のところについては、大体どこの観点についても6者とも説明があったように思うのですが、いかがですか。資料を作っている方からいただいていますので、そういったところを全般的に見ながら御意見いただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。

○ 拝崎委員

学校図書の観点5の視点⑨のところの、先程の光のところにはなるのですが、結果の表し方が、表が二つに分かれてしまっていて、子どもには二つの表を関連させて考えることが難しいのではないかと感じました。東京書籍は、合わせて表を示してありますし、他にも大日本図書や新興出版社啓林館も合わせて示してあるのですが、他の視点で見たときに、視点⑦の「動物の体のつくりと運動」のところで、複数の資料を東京書籍は示してくださっているというのもあるので、そういう意味では、東京書籍がいいのかなと思います。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。その他いかがですか。

○ 久保委員

近くの委員同士で話したところでは、新興出版社啓林館がよいという話が出ました。

資料2の9ページについて、本市実態として、思考、考察する力が不十分であるということから考えたときに、先程、調査員の代表の方も、教育出版や新興出版社啓林館には、児童の思考の吹き出しの部分に線が入っているということで、3年の日光のところであっても、「たくさん重ねる」というところが肝で、意識がいくようにマーカーがしてあって、考察するときに見やすいのかな、と思いました。

もう1点は、新興出版社啓林館は教科書全般に「問題」「予想」「結果」「まとめ」という問題解決の過程が一通りになった記載がされていて、先程、不登校の児童のお話も少しありましたが、そういった子どもに対しても、振り返りが非常にしやすいものなのかな、なおかつ、思考力や考察の力を高めるためにもいいのかな、という話がこのあたりで出ました。

○ 寺田委員

視点⑨のところで考えてみたのですが、比べてみたときに、水溶液で実験の結果を整理するのに見やすいかな、と思ったときに、東京書籍は写真がなかったもので、他のものと比べたら分かりにくいのかなと思いました。大日本図書は字が少なめで写真が大きめだったので、ぱっと見て分かりやすいなと思いました。学校図書は字が小さくて分かりにくいな、と思いましたし、信州教育出版社も教科書自体が小さめなので少し見えにくいなと思いました。新興出版社啓林館は多面的に捉えられていて、写真もある、ただ教科書が小さいので情報がぎゅっと詰まっているなど私は捉えました。6年生の水溶液だけで見ると、大日本図書、教育出版、新興出版社啓林館が、ぱっと見て結果を比較しやすいなと思いました。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。その他いかがですか。

今までいただいた御意見でいいますと、新興出版社啓林館、東京書籍のあたりが、「ふさわしい」としてよいのではないかと御意見だったと思いますけれど、東京書籍と新興出版社啓林館で挙手による採決をさせていただくというのはいかがですか。もう少し何か御意見ありますか。

(一同、手元の教科書や資料を再度確認し、近くの委員同士で意見交流を行う。)

- 樽谷会長
それでは、東京書籍、新興出版社啓林館で手を挙げていただくということでいかがでしょうか。よろしいですか。言っておきたいことはございませんか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
それでは、東京書籍と新興出版社啓林館で挙手をしていただきたいと思います。
では、東京書籍の方が「ふさわしい」と思われる方、挙手をお願いします。
(人数確認。6名の委員が挙手。)
- 樽谷会長
6名ですね。それでは、新興出版社啓林館の方が「ふさわしい」と思われる方、挙手をお願いします。
(人数確認。13名の委員が挙手。)
- 樽谷会長
13名でした。多数決の結果、新興出版社啓林館を「ふさわしい」教科書とさせていただきたいと思います。
- 樽谷会長
では、お諮りします。教育出版を「よりふさわしい」教科書として、新興出版社啓林館を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。
(人数確認。19名全員の委員が挙手。)
- 樽谷会長
それでは、広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、理科の教科書について、教育出版を「よりふさわしい」教科書として、新興出版社啓林館を「ふさわしい」教科書としたいと思います。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
以下の審議についても同様の方法で進めてまいります。
- 樽谷会長
それでは、生活の調査員から生活の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

- 樽谷会長
今の報告について質問がありましたらお願いします。
(「質問なし」)
- 樽谷会長
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
生活の調査員の代表の方、ありがとうございます。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)
- 樽谷会長
それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。
- 青木委員
説明いただいた中では優劣をつけにくいのですが、実際の教室での使いやすさという観点で御意見をいただけたらありがたいです。同じような記述が多い中で、使いやすさというのは一つのポイントだと思いましたのでよろしくお願いします。
- 松島副会長
現在、教育出版が広島市では使われており、いいなと思っています。なぜかという、教科書の最後の「学びのポケット」に「見よう かんがえよう」、「つたえよう」、「どうぐをつかおう」など、具体的な手立てがたくさんあり、気付きの質を高める具体が示されています。いろいろな手立てを使って、子どもたちがいろいろな気付きをすることができます。先生方の支援にもなります。それから、階段状のものが付いていて、キャラクターがだんだん登りつめていきます。自分が振り返ったときに「自分がどこまで登れているかな。」と確かめる一つの目安になっています。この教科書には、自分の成長に気付くということも含めた自己評価ができる仕掛けがたくさん詰まっています。
- 堤委員
低学年の担任をしています。教育出版の教科書は使いやすいと思います。図鑑のようになっているページがあり、このページに直接見付けたものを丸することができるので、自然のページは使いやすいと思っています。先程言われたはしごは、他の教科でも活用できるし、よく使っています。子どもたちに今どこまで進んだと示せるのがいいなと思っています。
- 神岡委員
昨年度、1年生を担当して教育出版で生活科の授業をしました。説明にあった「かぞくにごにこ大きくせん」の単元では、実際の振り返りで「〇〇へ」と書いている文章が示してあり、こうやって書けばいいんだなど見ることができるのはいいと思います。私も、はしごを

意識して指導しており、「ここまで登ってきたね。」と言えるので、仕掛けがいっぱいあるなと思っています。最後、表現する場面ですが、タブレット端末を使っている写真が載っているのは、資料の15ページによると、新興出版社啓林館と教育出版で、1年生や2年生はいろいろな表現方法を自分達で選んでくると思うので、幅をもたせるいろいろな表現方法があるということが教科書を見れば分かるというのは、低学年の児童にとって分かりやすいと思いますので、私は教育出版を推したいと思います。

○ 渡部委員

生活科で1・2年生を経て、3・4年生で総合的な学習の時間になり、つながりをもたせるのが大事だと思うのですが、松島校長先生が仰ったように、教育出版の109ページ以降の「学びのポケット」には、「こういうときはこうするよ。」とか、「こういうことに気を付けようね。」とか、すごく詳しく書いてあって、教師も子どもにも伝えやすいと思いましたし、子どもたちもこういうことに気を付ければいいんだということがはっきり分かって、いいなと思います。また、観点5の伝え合う活動のところで、教育出版では8種類紹介してあるということだったのですが、3年生以上の総合的な学習の時間とのつながりを考えていくと、たくさんの表現方法を低学年のうちから経験させてあげるのは、その後の学びに関わっているなと思います。

○ 樽谷会長

これまでの意見で多いのは、教育出版ということで、「よりふさわしい」教科書は教育出版ということになると思いますが、「ふさわしい」教科書を選ぶにあたり、他の教科書についての意見はありませんでしょうか。

○ 松島副会長

先程、本市の課題について、視点の③、⑤、⑥になるという意見があったと思いますが、その中で視点の⑥について、東京書籍と教育出版には、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿が挿絵で示してあるということでした。幼児期の姿を振り返って1年生のスタートカリキュラムにすぐに取り入れることができるという点では、東京書籍がふさわしいと思います。それから、13ページによると、東京書籍では町探検を3回設定しているところは、他の出版社と違っています。同じ体験を何度も繰り返すというのは大切な育ちにつながるということで生活科は大切にしている点です。このことは東京書籍がふさわしいといえるポイントに挙げられるかなと思います。

○ 寺田委員

先程、発表する場面で多様な表現方法があるというお話のときに、下の教科書の最後、2年間の最後に自分の成長を伝えるときに、どんな表現方法ができるかと思ったときに、大日本図書だとほぼタブレット端末ですが、東京書籍だと、タブレット端末やデジタル紙芝居、紙媒体のものがあ、まとめる力が十分ではない低学年にとっては見本があると教員としてはありがたい、しかも子どもの字で書いた見本があると分かりやすいなと感じました。

○ 樽谷会長

それでは、これまでのお話の中では、教育出版を「よりふさわしい」、東京書籍を「ふさわしい」という話になっていると思うのですが、それではよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

では、お諮りします。教育出版を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、教育出版を「よりふさわしい」教科書として、東京書籍を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、音楽の調査員から音楽の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

○ 青木委員

本市の実態や児童の状況の、二つ目の丸のところ、「一方で、児童によって音楽経験の差が大きく、日常生活において、我が国や郷土の伝統的な音楽に親しむ機会が非常に少ない」ということが課題に挙げられていますが、そうなると、大事な視点が⑤になるのではないかと思います。調査の中で⑤は重要な視点とは挙がっておらず、また、調査結果を見ると、あまり差がなかったようです。この課題認識と視点、実際の教科書の差について、補足があればお願いします。

○ 河野調査員代表

やはり音楽経験の差というのは、児童によって様々ですが、先程仰られたように、視点⑤については、調査した結果、あまり大きな差はありませんでした。その中で、特に、我が国や郷土の伝統的な音楽に親しむ、というところでの地域差が大きく、例えば、お祭りなどが盛んに行われる地域では、子どもたちが自然にそのような音楽に親しんでいます。このような活動がない地域もあります。こうしたことから、視点⑦にも深く関わるということから、視点⑦を課題に対する視点として挙げています。視点⑤についても課題に関わりますが、両者とも扱われているということから、重点的な視点として挙げておりません。

- 青木委員
分かりました。
- 樽谷会長
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
音楽の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

- 樽谷会長
それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。

- 辻委員
まず、視点⑦についてですが、私たちは普段から西洋音楽ばかりに触れている環境であることや、授業をしていく上で、西洋音楽の方がおそらく授業をしやすいのではないかと思います。その中で、我が国の音楽が蔑ろにされている印象があります。その点において、教育芸術社の方が全学年で我が国の音楽について扱いがあるというところは、よいと思います。一方で、広島市の児童の音楽経験の差が大きい、という点に照らし合わせて考えると、視点③の思考力、判断力、表現力等の、児童の音楽づくりにおいて、教育芸術社は、音楽をつかっていく過程の例が少ないように感じます。教育出版は、小節ごとに当てはめていく例が表になっていて、分かりやすく、音楽をつくりやすいと感じたので、教育出版の方がよいのではないかと思います。他の点においても、教育出版の方が、図が示されている箇所が多く、教育芸術社は言葉だけで説明されているところがあるように感じます。音楽における表現力を高めるということにおいて、音楽で使われるような言葉を子どもたちが知っておくのはとても大事だと思います。教育出版の巻末には「音楽を表すいろいろな言葉」が示されています。両者ともそれぞれよさがありますが、総合的に考えると、教育出版の方が広島市の実態に合うと思います。

- 堤委員
私も教育出版が本市の実態に合っていると思います。巻末の「音楽をあらわすいろいろな言葉」は使えると思います。曲について「どんな感じがしたのか。」と質問しても、表現することが難しい子どもたちがたくさんいる中で、「この中の言葉を使って書いてごらん。」と言えるのは、とても効果的だと思います。また、視点⑤の教材の曲について、1年生の教材を比べたときに、教育出版は「かもつれっしゃ」があり、教育芸術社にはありません。この曲は、子どもが意欲的に取り組むので、1年生の導入にぴったりだと思っています。また、5年生の合奏では、教育出版は「ルパン三世」、教育芸術社は「威風堂々」になっているなど、曲を比べたとき、経験が少ない児童も取り組みやすいので、教育出版の方が実態に合っているのではないかと思います。

○ 渡部委員

曲を聴いたときに、「どんな曲だったか。」と質問しても、最初のうちは、子どもたちは思考が止まってしまいます。この表の中から言葉を選ぶことはとても大切だと考えます。また、表の中から選ぶことも難しい子どもがいる中で、友達の発言を聞くことで、「この旋律はこんな感じがするということなんだ。」とだんだん言葉で分かるようになってきます。さらに、教育出版の4年生の78ページのような『音楽のもと』まとめにある音楽を形づくっている要素は、いろいろな教材曲の中で、特に特徴的なものが示されています。他の教材を学習したときも、「音楽のもとで言うと、どのことかな。」と質問すると、「強弱だ。」「反復と変化だ。」と気付くことができ、授業を進める上でも、「音楽のもと」が、よい手掛かりとなっているので、子どもたちの言語活動を充実させたり、思考・判断を促したりする上で重要なページであると思います。

○ 面家委員

言語活動を充実させるための巻末のページは、とても魅力的に感じました。どの教科でも言葉の力を使って表現することが求められるかと思います。音楽は形のないものなので、言葉を使って感じたことを伝え合うということが、この表を手掛かりに行うことができるので、必要だと思います。学年が上がるごとに、記載されている言葉が増えていたり、自分たちでつくる欄が設けてあったりと、グレードが上がるように表記されています。また、体裁が整っていて、系統的に学年が上がっても、「こんなのがあったな。」と使い続けることができるのではないかと思います。

○ 松島副会長

「音楽のもと」に関して、6年生の教科書で、「音楽のものは、料理でいうと材料のようなもので、それらがさまざまに調理（作曲や演奏など）されて、できあがった料理（音楽）のおいしさ（特徴）となっているのです。」と音楽を形づくっている要素について、子どもたちに分かる言葉で示されていて、とてもよいと思います。

○ 田村委員

1年生の初期の学習でリズムをつくる学習では、教育出版は自分が考えたことをかく欄があります。教育芸術社は頭の中で考えるようになっていきます。自分が考えたものが視覚的に分かることで、友達と比べたり、自分がうまくできなくても友達がそれを見て教えたりすることができますし、教師もそれを見て「あなたは、このようにしたかったんだね。」と支援することができると思います。

○ 樽谷会長

それでは、これまでの協議の流れでいきますと、教育出版を「よりふさわしい」、教育芸術社を「ふさわしい」とする意見が多いのですが、このようにお諮りしてもよろしいでしょうか。

（「異議なし」）

○ 樽谷会長

では、お諮りします。教育出版を「よりふさわしい」教科書として、教育芸術社を「ふさ

わしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、教育出版を「よりふさわしい」教科書として、教育芸術社を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、図画工作の調査員から図画工作の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

○ 新谷委員

各発行者を比較しているものを見せていただく中で、観点1の視点②材料・用具の取扱いと表現方法の紹介で、化学接着剤とグルーガンについては開隆堂出版は1・2年生、日本文教出版は3・4年生で扱っています。世間一般的に言うと、何年生で取り扱うことが適切なのでしょうか。

○ 桐野調査員代表

学習指導要領解説では、特にグルーガンという名称は示していません。安全な接着用具を低学年で学習すると書かれているので、その解釈だと思います。

○ 新谷委員

使えないものが載っているわけではないということでしょうか。

○ 桐野調査員代表

はい。

○ 寺田委員

本市の実態や児童の状況においては、児童が感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりする能力の育成に課題があるということですが、視点⑨の言語活動の充実に重きを置かれなかったのは理由があるのでしょうか。

○ 桐野調査員代表

それも、調べる段階においては視点にしていました。ただ、視点⑨以上に視点①、④、⑤の方が重要かと思い、報告させていただきました。決して視点⑨について疎かにしていたわけではありません。

○ 寺田委員

分かりました。

○ 樽谷会長

それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。
(「異議なし」)

○ 樽谷会長

図画工作の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

○ 樽谷会長

それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。

○ 上田委員

日本文教出版が長く続いていると思うのですが、ぱっと見た感じですね、最初に書かれていましたが、本物の美術作品に触れるというところは、やはり、日本文教出版の方が色、発色ですかね、まず、見た感じの色が、開隆堂出版よりも本物に近い気がします。私の主観かもしれませんが、そういう感じがします。

次に、めあてのところの表し方が2者で違うということが分かりました。開隆堂出版は、めあてに線を引くということで大事なめあてを示しているというのが分かるのですが、日本文教出版はめあてを事細かく示してあり、特に、鑑賞のめあてが明文化されているというのは、大事なことだなと思っています。得てすると鑑賞をすうっと流して指導してしまうということがあるかと思うのですが、ここに「まどのかたちや作品の楽しさをあじわう」というめあてが明記されているため、これをきちんと指導していこうということで、明文化されているのもいいかなと思いました。

また、鑑賞の力を育てるという意味で、鑑賞題材が開隆堂出版に比べて多いというのはいいことかなと思いましたので、日本文教出版かなと私は思いました。

○ 拝崎委員

私も、日本文教出版の方が、めあてのところが細かく分かれているのが、子どもにとって考える中ですごく分かりやすいのかなと思いました。

「パクパクさん」の題材を見ても、日本文教出版の方が紙コップだったり、袋だったり、いろいろなもので示してあります。今、子どもたちが遊びの中に身の回りの物を使うという

ことがなかなかない中で、このように、教科書の中にたくさん示してくれると、子どもたちもそこからヒントを得て、発想とかが豊かに広がっていくのかなと思うと、日本文教出版の方が、種類が豊富に載っていていいなと思いました。

○ 加藤委員

上田先生の言われた鑑賞のところが、日本文教出版の方がいいなと思いました。アート・カードを使うというのもあって、アート・カードみたいなもので、ゲーム感覚ですと、本当に子どもたちは一生懸命絵を見るなあと感じているので、鑑賞って「しっかり見る」ということを、意識しにくいところだと思うのですが、そういう意味では、日本文教出版の教科書はすごく力を入れているのが分かるし、写真もはっきりしているなあというのがあります。造形遊びのところでも、吹き出しがいろいろあるところもいいなあと思って、子どもたちもそれを読んでもっとやってみたいという気持ちになるのではないかなと思いました。

○ 田村委員

つくり方が書かれているのがいいなと思いました。市販の教材を購入した際、それにつくり方などが載っていると思うのですが、そうではなくて、教科書の中に、例えばとび出すカードをつくるのであれば、開隆堂出版は「こんな仕組みができますよ。」と示しているが、日本文教出版は、実際に切るところとか折るところとかが書いてあるので、それを見ると、これを真似すると、こんな形になるんだというのが分かるなというのが、3・4年生にもありましたし、1・2年生の窓の題材でも、「ここを切ります」、「ここは切りません」ということが日本文教出版は書いてあり、開隆堂出版は書いてなかったのだから、家に持って帰って家でつくるとなったとき、子どもたちは自分でつくれるのではないかなと思います。

○ 樽谷会長

その他、いかがですか。これまでの流れの中では、日本文教出版の方が「よりふさわしい」ということになるかと思うのですが、そのように進めてもよろしいでしょうか。お諮りしてもよろしいですか。これは言っておきたい、という御意見はありますか。よろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

では、お諮りします。それでは、図画工作科の教科書として、日本文教出版を「よりふさわしい」教科書、開隆堂出版を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、日本文教出版を「よりふさわしい」教科書として、開隆堂出版を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと考えますが、よろ

しいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、保健の調査員から保健の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

○ 湯澤委員

本市の実態や児童の状況のところですが、スクリーンタイムとは、何ですか。

○ 福田調査員代表

スクリーンを見る時間で、テレビの画面を見るとか、最近ではタブレット端末の画面を見ることやゲームの画面を見るといった時間です。

○ 湯澤委員

分かりました。

○ 樽谷会長

それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

保健の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

○ 樽谷会長

それでは、本市の児童や地域の実態に即した教科書として、ふさわしいものはどれか審議し、「よりふさわしい」及び「ふさわしい」教科書を決めたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。

○ 拝崎委員

本市の課題のところにある運動に親しむとか、健康な生活を送ろうとする態度の育成というところから考えたときに、視点③の興味・関心を高めるというのはすごく大事だと思います。そうなったときに、大修館書店と光文書院は、こんなことも運動になるんだという例がたくさん載っているというのは、子どもたちにとってすごくいいのかなと思いました。また、最後の視点⑧のところで大修館書店と文教社と光文書院は、具体的な場面から児童が自分の考えを記述するところも、具体的に考えられるというのは子どもたちにとって表現しやすいところかなと思いました。

○ 寺田委員

視点④の実生活や社会生活に関連付けられるような記述や内容の工夫のところ、比較している大日本図書と大修館書店と光文書院の中で、大日本図書はSNSに関することが巻末の方に載っていますが、大修館書店と光文書院は、学習した内容の次のページに「広げよう深めよう」が載っていて関連付けてあるので、教えるときには学んだことに加え、「さらにこんな例もあるよ。」と教えることができるので、学習するときに児童も思考しやすく、教師も教えやすいというイメージです。

○ 樽谷会長

体育科の観点から何か御意見はありませんか。

○ 久保委員

先程お話にもあったと思いますが、実生活・社会生活に関連付けられたというところで光文書院と大修館書店には、ほぼ毎学年、単元後にこういった学習があるのは、非常に大事かと思えます。本市においても生活習慣の乱れということについては意識しないといけないし、一つの学年だけだと学びが連続していかないと思えます。本市で行っている生活リズムカレンダー等と連携することができるので、非常に効果的であると考えています。さらに、自分の生活を振り返るような記述があった方がよいと思うので、数も大事ですが、そこで何を話し合わせるのかが非常に大事だと思います。光文書院と大修館書店は児童にとって考えたことを書きやすいと思いました。

○ 樽谷会長

今の御意見を伺っていると、大修館書店と光文書院についての意見が多いのではないかと思います、その他何か御意見があればお願いします。

○ 田村委員

一つの視点として、先程、久保委員は「自分の生活に振り返るような記述がある」と言っていたのですが、大修館書店は他と違って、いつもではないですが、時々自分のことを書いた後に参考にした他の人の意見とか他の人の意見を聞いてどう思いましたかなど、改めて友達との話から考えたことを書く場所もありました。

○ 湯澤委員

スクリーンタイムが非常に多くなっていて、子どもたちがメディアをたくさん見ており、生活への影響があるという実態があると思うので、どうやって小学校段階からきちんとした健康的な生活リズムを身に付けるかという観点から、SNSの使い方とか、スマートフォンとか動画等を自主的にコントロールする面で、現場としてどちらが指導しやすいのかという点で御意見をください。

○ 樽谷会長

今の湯澤委員の御質問について何かあればお願いします。視点④になると思いますが、大修館書店と光文書院は、SNSの扱いについてはすぐ次のページで、大日本図書は巻末で取り扱っているということですが。

○ 久保委員

スクリーンタイムの話に限ると、光文書院は3・4年生ではっきりとスクリーンタイムという言葉があり、何がスクリーンタイムなのか説明し、それによって運動時間や睡眠時間が短くなってしまうことを明記してあります。大修館書店の17ページのところは、スクリーンタイムという言葉はあまり示されていませんが、睡眠不足になるというところがあります。光文書院は、睡眠時間に加え運動時間が、スマートフォン等によって時間が取られてしまうので、弊害について明記されています。

○ 樽谷会長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。それでは、大修館書店と光文書院の2者という意見が多いように思います。この2者で「よりふさわしい」と「ふさわしい」に絞ってよいでしょうか。もう少し御意見を伺った方がよろしいですか。もう少し時間をとった方がよいですか。

○ 竹内委員

大修館書店のSNSに関する表記の中に、犯罪やコロナのときの依存症等についても実際に掲載してあるのはよいかと思うが、どの程度まで学校で教えるのか気になります。光文書院の方が子どもに分かりやすいと思います。SNSに関して危険なことが書いてあるのは、大修館書店の方だと思いますが、どちらがよいのでしょうか。

○ 久保委員

大修館書店を見せていただくと、この単元は32～35ページにあって、その後に36ページ（「もっと学びを広げよう！深めよう！」）がついてくると思いますが、45分の授業で考えると、資料として扱う程度でない授業時間内に入りきらないというところはあります。

○ 寺田委員

今の意見に関連させるとしたら、光文書院と大修館書店だと、大修館書店の方が若干どちらの学年も分量が多いです。実際の保健の授業で考えると、1単位時間で内容を教えて、みんなで話し合う時間をとりながら授業を行うと量が多すぎたり資料が多すぎたりしても、扱いきれない部分もあるのかと感じます。

○ 樽谷会長

それでは、ここについては意見が割れているようでもありますが、いずれにしてもこの2者に関わっての意見が多いようなので、この2者で「よりふさわしい」と「ふさわしい」を決定したいと思います。挙手で数の多い方を「よりふさわしい」とさせていただくのはいかがでしょうか。よろしいですか。

（「異議なし」）

○ 樽谷会長

それでは、どちらの方が、よりふさわしいと考えられるかということで、「よりふさわしい」と思う方に挙手をお願いします。それでは、大修館書店の方が「よりふさわしい」と思われる方、挙手をお願いします。

(人数確認。挙手なし。)

- 樽谷会長
光文書院の方が「よりふさわしい」と思われる方、挙手をお願いします。
(人数確認。19名全員の委員が挙手。)
- 樽谷会長
では、お諮りします。光文書院を「よりふさわしい」教科書として、大修館書店を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。
(人数確認。19名全員の委員が挙手。)
- 樽谷会長
それでは19名全員一致ということですので、広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、光文書院を「よりふさわしい」教科書として、大修館書店を「ふさわしい」教科書としたいと思います。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
それでは、英語の調査員から英語の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)
- 樽谷会長
今の報告について質問がありましたらお願いします。
- 松島副会長
今、視点⑧の方で、アクティビティの数の報告がありましたが、アクティビティの数にばらつきがありますが、アクティビティの内容と何か関係がありますでしょうか。
- 中尾調査員代表
アクティビティの数を視点⑧のところで掲載させていただいておりますが、このアクティビティは、数が多いからよいというわけではなく、例えば自分だけの目線に立たずに、他人になりきって国を紹介するなどの場面設定の工夫がある方が、固定された自分が使いたい単語から解き放たれて、他人になりきってアクティビティができるので、そういった工夫が必要だと思えます。話す必然性をもたせるという意味では、アクティビティの内容には工夫が必要だと思えます。アクティビティの数をこなせばよいというわけではないと思えます。

○ 樽谷会長

その他、質問がありますでしょうか。

○ 青木委員

視点①の語順の違いなど文構造についてというところですが、これについては、教科書会社で何か工夫の違いはありましたか。5・6年は、3・4年の活動と中学校の間の段階で、前倒しができないのでとても難しいです。現実の問題としては、アクティビティで使っている言葉と語順で示している言葉は相当乖離している。非常に単純な語順が書かれていても、アクティビティではもっと複雑なことをしゃべらせている。そういう点で、何か工夫が見られた教科書がありますでしょうか。

○ 中尾調査員代表

そのために、毎時間スモールトークを行います。スモールトークで何をするかというと、今までに学習した単語を使って、友達とやり取りをするとか、スモールトークによって話すときのうなずきやジェスチャーなどを用いながら、今まで習ってきた既習事項を確認する・復習するところで、スモールトークを何度も重ねて、アクティビティができるようになります。

○ 青木委員

語順とか文構造といったことに関する教え方というところで、教科書によって扱い方の違いがありましたか。小学校6年生ぐらいでは、語順のところが、例えば東京書籍は、主語と目的語の並べ方の部分がありました。開隆堂出版は、本当にすごくシンプルな感じで1か所あったぐらいだった。もちろんアクティビティと乖離していて苦しいところだと思いますが、教科書に濃淡があるかどうかちょっと知りたかった。5・6年の教科書で扱うのは、私はわりとそこが結構肝だと思っていて、基本的にはアクティビティ重視にならざるを得ないのは絶対そうですけど、3・4年と中学校をつなぐというところでは、文法を教えるとはいけないと言われているけど、構造を教えるというのと文法を教えるというのは、どう違うのか誰も分かっていなくて、一つの教科書の腕の見せ所のような感じもしたが、それに関しては、ほとんど違いがなかったということです。

○ 中尾調査員代表

文の構造ということですね。

○ 青木委員

そうです。文の構造といっても、基本的には文法に近いものだと思いますが。

○ 中尾調査員代表

今、どの教科書にあるかということはお答えできないのですが。

○ 青木委員

探しにくいですね。本当にわずかですね。

- 中尾調査員代表
しかし、そこも意識しながら、教えられるとは思いますが。
- 青木委員
そうですね。教えざるを得ないですね。
- 中尾調査員代表
今までも広島市ではそうして指導してきました。
- 青木委員
例えば、「NEW HORIZON」の95ページ、6年生の95ページ。
- 中尾調査員代表
ただ、この文の構造ばかりにこだわってやるよりも、やはり小学生の外国語なので、それよりも、こういった言い回しを用いながら、コミュニケーションを取ることが主なねらいだと思います。
- 青木委員
私もそう思いますけど、4年間アクティビティだけでもたすのはなかなか大変だと思っていて、もともと5・6年で指導していた学習を3・4年に下ろした。そのところをどう扱うかというところが、私の一つの大きな関心事なのですが、教科書を見る限りでは、あまり違いがないと思いますけれども、ここに書いてくださっているので、ちょっとお聞きしました。分かりました。ありがとうございました。
- 樽谷会長
その他、いかがでしょうか。
- 湯澤委員
冒頭で、デジタル教科書の紹介がありましたが、特に英語の場合には、発音として日本的な発音をするのか、ネイティブの発音をするのかというのが非常に大事だと思うので、例えば、apple を apple というのか、アップルというのか、それは英語を学習する上で、単なる日本的な発音で学習するのか、英語の発音で英語を学習するのか、とても大事なところだと思います。例えば、デジタル教科書で、マーカーを読み取ると、ネイティブの発音が出てくるようなものが、全部の教科書で共通してそういう仕組みがあるのか、確認したいのですが。
- 中尾調査員代表
まだそこには、教科書にはないと認識しておりますが。
- 湯澤委員
教科書というか、デジタル教材はどこもくっついていて、マーカーが付いているわけで、いろいろな教材が付属して使えるようになってはいますが、そのときに、ネイティブが発音した発音をチェックできるようなものが大事かなと思うのですが。

- 中尾調査員代表
個人で、ということですか。
- 湯澤委員
はい。もちろん、ALTが発音をデモンストレーションすると思いますが、それを子ども個人で、チェックできるようなことがあると、発音の学びというのが大きく違ってくるかなと思うので、最初にデジタル教材の違いみたいなところは示していただいたので、そのあたりをチェックされているのかなと思ったのですが。
- 中尾調査員代表
デジタル教材に関しては、今回は、全てを調査していないので、お答えすることはできません。
- 大下主任指導主事
その点については、事務局から説明をいたします。
- 山本指導主事
先程も申し上げましたように、デジタルの方は全ての教科書のものは調べていませんが、QRコードがありまして、QRコードを読み取って、ネイティブの発音を聞くことはできます。
- 湯澤委員
大体どの教科書もそうですか。
- 山本指導主事
QRコードを読み取ればできます。
- 竹内委員
補足で発音について質問ですが、一番最初にアルファベットの読みと音声、発音がありますよね。そこでは、フォニックスをやりますか、ABCのみですか。
- 山本指導主事
フォニックスも含めて行います。
- 竹内委員
フォニックスも含めている。それは、どの教科書もやっていますか。
- 山本指導主事
そうです。どの教科書にもあります。
- 樽谷会長
その他、いかがでしょうか。

- 樽谷会長
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。
(「異議なし」)

- 樽谷会長
それでは、英語の調査員の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)

- 樽谷会長
それでは、先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。御意見ございませんでしょうか。

- 青木委員
先程は、つなぎというところで、5・6年生で何を教えるのが難しいところがあるのですが、中学校を前倒ししない、アクティビティを中心にならざるを得ない、そういう点では、アクティビティが多い方が現場では使いやすいのかなという印象をもちます。その中で実際に、小学校の中で英語教育がいろいろと御苦労があると聞いているのですが、そういう点からいくと、東京書籍が数だけじゃないという話ですが、それでもアクティビティの数が多く、それからもう一つは、確実に今使われているのが、東京書籍「NEW HORIZON」。そういうことを考えたときに実際の教室での継続性という観点でも、どんどん新しいものになるよりは、やっぱり使っていて、使い慣れている、そういう点からまず一つわたしは、配慮してもいいのかなど。これが良いか悪いかは、なかなか難しいが、現実に使われている、継続性という点ではアドバンテージになるのかなという気がしました。

- 樽谷会長
ありがとうございます。その他、いかがですか。

- 面家委員
やはり小学校の外国語科は、言語活動の充実が一番重視されることだと思うので、視点⑧で見ると、コミュニケーションの目的をしっかりと子どもがもって行うことが大切だと思います。いろんな工夫された活動がありますが、例えば、開隆堂出版の「行きたい国クイズ」というのは、すごく盛り上がると思いますが、勝敗にこだわり、正解・不正解でゲーム性で盛り上がるのが逆に仇となって、伝え合うことが疎かになってしまう可能性もあると思います。単元の活動名を見てみると、東京書籍は、「行きたい国の魅力を伝えるために」とか、光村図書出版も同じ、「世界の国々の魅力を伝えるために」という目的をはっきりさせているところが子どもたちにも明示されていていいのかなと思いました。これが一番重視されるべきだと思います。もう1点付け加えるとしたら、3番の観点ですが、どの教科書会社にも絵辞書がついていますが、単元末とか、5年の巻末・6年の巻末というよりは、別冊で持っていた方が、2年間見通して使えるのでいいと思います。私も子どもがいますが、小学校で使っていた絵辞書を中学校に上がる時に持っただと中学校の先生から言われたと我が子から聞きましたし、別冊で1冊でよいのではないかなと思います。

- 樽谷会長
ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。
- 久保委員
東京書籍も開隆堂出版もいいなと思いますが、巻末のものをちょっと見せていただくと、東京書籍の巻末は結構授業ですぐ使えるものが結構付いていて、今自分は5年担任ですけど、英語の授業を少し見させていただいたときに、かなりの確率で使っていて、子どもたちの反応もかなりよいといいますか、主体的に取り組みますし、楽しそうにやっているなどという印象を受けていましたので、子どもたちにとってやりやすいのかなという印象を私個人的には受けました。以上です。
- 樽谷会長
東京書籍と開隆堂出版ですか。
- 久保委員
東京書籍の方です。今、現行で使っているものですね。
- 樽谷会長
ありがとうございます。その他、いかがですか。
- 樽谷会長
一番多く、よいのではないかと意見が出されたのが、東京書籍かなと思います。その他に、コミュニケーションの目的を考えたときに、光村図書出版という意見、別冊では、三省堂の「My Dictionary」や開隆堂出版の「Word Book」という意見があったかと思います。
「よりふさわしい」教科書としては、東京書籍というふうな感じかなと思っておりませんが、それに関してはいかがでしょうか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
では、東京書籍以外で、開隆堂出版、三省堂、光村図書出版が挙げられているのですが、何かその他の視点といたしますか、御意見いただければと思いますが。
- 寺田委員
東京書籍が、最初の単元のめあてみたいところが分かりやすく、オレンジ色で書いてありますけれども、それと同じように、開隆堂出版も緑色で統一して「毎回、こういうことをやるんだよ。」と、めあてが書いてあるので、分かりやすいと思いました。
- 樽谷会長
開隆堂出版ですね。
- 寺田委員
はい。

(一同、手元の教科書や資料を再度確認する。)

○ 樽谷会長

東京書籍は、おそらく「よりふさわしい」として皆さん、考えていると思いますので、「ふさわしい」教科書について今、開隆堂出版と三省堂と光村図書出版の三つの教科書がよいのではないかという御意見が出ています。この三つの中から「ふさわしい」教科書を挙手で選ぶのはいかがですか。もうちょっと時間が必要ですか。よろしいですか。それでは、挙手が一番多かったところを「ふさわしい」とさせていただきますということで、いかがでしょうか。

その前に言っておきたいなということがあれば、出していただいてもいいのですが。

(「意見なし」)

○ 樽谷会長

それでは、開隆堂出版、三省堂、光村図書出版の3者で「ふさわしい」のはどれか、挙手をお願いします。よろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、「ふさわしい」教科書として、開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

(人数確認。16名の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

16名でした。それでは、三省堂がよいという方、挙手をお願いします。

(人数確認。2名の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

2名でした。それでは、光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

(人数確認。1名の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

お一人でした。それでは、開隆堂出版が一番多かったので、「よりふさわしい」教科書を東京書籍、「ふさわしい」教科書を開隆堂出版ということで、お諮りしてもよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、お諮りします。東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、開隆堂出版を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

19名全員承認ということで、広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、開隆

堂出版を「ふさわしい」教科書としたいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、算数の調査員から算数の教科書の調査・研究について、報告をお願いします。

(調査員代表者 調査報告)

○ 樽谷会長

今の報告について質問がありましたらお願いします。

○ 青木委員

1点だけ教えてください。よく分かっていないのが、46ページの単元とページ数の違いというのはどう考えたらよいのでしょうか。算数の教科書についてよく分かっていないのですが、出版社によって結構単元の数が違って、どちらかという和学校図書のものが単元もページ数も割と多いのですけれども、それはどういう構成の違いになっているのか、関係あるのか教えていただきたい。例えば、学校図書を見ると、他の教科書に比べて単元の数もページ数も大体多いのですけれども、内容のカテゴリーだとかで分け方だとか、そういうことによりかなり違いがあるものなのかを聞きたいのですが。

○ 西田調査代表

単元に関しては、学年で教えなければいけないことが決まっているので、それをどのように分けるのか、一つの単元とするのか、または二つの単元に分けるのか、教科書会社によっては異なりますので、単元数が違ってくるのだと思います。

○ 青木委員

別に内容的にどうかというよりは、教科書会社によって二つに分けたりとか…。

○ 西田調査代表

そうですね。教えなくてはいけないことは全て網羅してあるのですが、子どもが一つのことを学習するのに分けた方がよいのか、一緒にする方がよいのかということで工夫されているのだと思います。

○ 青木委員

消化不良を起こすのかどうか分かりませんが、学校図書の場合は同時にページ数も多くなっていますよね。分かりました。ありがとうございました。

- 樽谷会長
その他いかがですか。他に質問ございませんか。
(「質問なし」)
- 樽谷会長
それでは、この報告書にまとめられている内容について、これでよろしいでしょうか。
(「異議なし」)
- 樽谷会長
算数の調査員の代表の方、ありがとうございました。どうぞ御退席ください。

(調査員代表者退出)
- 樽谷会長
それでは、審議に入りたいと思います。先程の報告を基に、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。
- 湯澤委員
どの教科書も、数的な考え方についてのまとめみたいなのがしっかり書いてあって、甲乙つけがたいというか、どれもよくできているなという印象です。ですから、どれを選んでもそんなに変わらないような気がするのですけれども、ただ、広島市の子どもたちが弱いのが「変化と関係」ということですので、視点⑧のところ、**「変化と関係」**の学習の比例と反比例について載っているのが東京書籍と教育出版と日本文教出版だということですので、そのあたりを採択するとよいのではないのでしょうか。
また、継続性という観点からいうと、広島市は東京書籍を使っているということで、どの者も差がないと考えれば、同じ教科書を使うとより効果が上がるのではないかという思いで、東京書籍が一番よいのではというのが私の意見です。
- 樽谷会長
算数科の観点から、いかがでしょうか。
- 岡田委員
学習指導要領にも書いてありますが、働かせたい数学的な見方・考え方を指導者が意識することが大切だという点から考えると、新興出版社啓林館以外は単元末に見方・考え方に関する部分があって、新興出版社啓林館は年に1～3回しかないというところが違うのかなと思います。
また、昔、算数の授業で、分数で、ペンキを塗る問題があって、ペンキを塗ったことのない子どもたちにペンキを塗ることはイメージが湧きにくくて、子どもたちにとってイメージしやすい、アサガオの種を取って数えるとか、特に低学年は具体物を使った方がよいと思います。そのあたりが微妙に教科書会社によって違うのかなと思います。
- 寺田委員
私も東京書籍を継続して使っていくのがよいかなと思いました。見直しをもって数学的活

動を行う工夫としてそれぞれ学習の流れがあるのですが、今までやってきたことを続けていく方が、力が付いていくのかなと思いました。それから、「算数の目」という単元末にある問題を通して、教員側も身に付けなければならない力を考えながら授業を考えていけることが有効だと思います。

また、1年生のまだノートも書けない時期に、この書き込み式の別冊があることで助かるし、学習の環境が整いにくい児童にとっても別冊があることで学習についていけるので、これは必須かなと思えます。

○ 樽谷会長

1年生の別冊は東京書籍だけですかね。他にも、大日本図書、学校図書、新興出版社啓林館、日本文教出版もありますね。

○ 加藤委員

東京書籍の教科書は、本時の問題があつて、既習事項とどこが違うかということがとても分かりやすいので、「今日はここが今までと違う、だったらどうしたらいいんだろう。」と自然な流れで見通しをもってめあてを立てることができるので、非常に使いやすいなと思えました。他の教科書を見ると、見通しがあまりないとか、本時の課題につながるような既習事項が全然なくて新しい問題に入っているというのも結構あつて、いろいろな者の教科書を改めて見てみると、東京書籍の教科書が使いやすいなと感じました。

○ 樽谷会長

今出されている意見では、東京書籍がよいのではという意見が多いと思います。東京書籍がよりふさわしいものと考えて進めてよろしいですか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

では、ふさわしい教科書について考えていきたいと思うのですが、先程までの御意見では、教育出版がアサガオの種を数える活動があつてよいのではないかという意見がありました。また、視点⑧に関して、比例と反比例のところで、教育出版と日本文教出版が取り上げられているという意見がありました。もう少し御意見いただければありがたいのですが。

○ 寺田委員

比例と反比例のところで、自分の考えを表現する、伝え合う活動について比較したときに、東京書籍では「問題をつかもう」、「自分の考えを書き表そう」、「友だちと学ぼう」、「ふり返ってまとめよう」という流れで、自力解決の表現が、「自分の考えを書き表そう」となっています。大日本図書は、「自分で考えよう」、教育出版が「自分の考えをもつ」、新興出版社啓林館が「自分で考えよう」、日本文教出版が「考えよう」とあります。私が算数の授業をしているときに、自力解決の時間は、自分一人で必ず考えなければならないという状況ではない進め方をしています。例えば、友達と相談してもいいし、分からなければ先生に聞いてもいいし、教科書を見て調べてもいいというふうになんらかの方法を選択できるようにしているので、「自分で考えよう」という表現だと自分一人で考えなければいけないというふうに捉えやすいかなと思うので、どちらかというところだと「自分の考えを書き表そう」とか「自分の考えをもつ」とか「考えよう」という表現の方が、より自分で選択して自力解決できる

と思いました。東京書籍、教育出版、日本文教出版が同じような流れなのかなと感じました。

○ 神岡委員

2番目に推すとしたら教育出版かなと思います。6年生の教科書の最後の方に、コンパスは3年生で学習すると思うのですが、定着の難しいコンパスの使い方や分度器の使い方、垂直と平行な直線のかき方とか6年生の最後に総復習をするときに、もう一度中学校に上がる前に定着させたいものが付属で付いているのがいいなと思いました。

○ 久保委員

教育出版がいいなと思うところがあって、単元末に必ず4コマ漫画が付いていて、勉強が苦手な子もぱっと見たときに内容が理解しやすいし、4コマというのは内容を端的にまとめてあるので、記憶に残りやすいのかなという意味で、これはいいなと思いました。

○ 辻委員

教育出版か日本文教出版かという見方で見たときに、日本文教出版の比例の学習が水槽に水を入れる場面を問題にしている、単元末の見方・考え方についての問題が、また、水槽に水を入れる問題になっています。そしてこの問題が、最初に3センチ入っているという場面で、どちらかという、間違えやすい問題のような出し方をしています。導入とつながりがあるものの、少し面白味に欠ける単元末の問題かなと感じました。

教育出版は、導入とつながりはあまりないものの、比例の単元末の問題として、アイスクリームを買うのに行列を作ったときにみんなが一定の速さで並んだとしたら、自分がこの位置にいたら待ち時間はどれくらいになるかという計算をするというのが、少し視点が変わって、日常生活に使うという視点になっていて面白味のある問題だなと感じました。こういう応用的な思考力を使う問題で、日常生活から問題を見いだすという点で考えたら、教育出版の方がよい課題だなと感じました。

○ 樽谷会長

その他いかがでしょうか。

(「意見なし」)

○ 樽谷会長

これまでいただいた意見から考えますと、東京書籍の教科書を「よりふさわしい」、教育出版の教科書を「ふさわしい」とすることでいかがでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

では、お諮りします。東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、教育出版を「ふさわしい」教科書としてよい方、挙手をお願いいたします。

(人数確認。19名全員の委員が挙手。)

○ 樽谷会長

広島市教科用図書採択審議会規則第6条に基づき、過半数を超えておりますので、本市としては、東京書籍を「よりふさわしい」教科書として、教育出版を「ふさわしい」教科書と

したいと思います。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

なお、答申の作成については、会長、副会長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

ありがとうございました。おかげさまで、本市として「よりふさわしい」教科書と「ふさわしい」教科書が決まりました。それでは、教育委員会から諮問された教科書の調査・研究について、慎重に審議を行った結果をまとめて答申いたします。

○ 樽谷会長

以後は、会長の責任において、事務局との間で答申の事務手続きを行いたいと思いますが、会長に一任していただけますか。

(「異議なし」)

○ 樽谷会長

それでは、これで本日のすべての審議を終了します。

委員の皆様の御協力によって、広島市の教科書採択について、公正かつ適正に審議し、教育委員会へ答申することができそうです。委員の皆様、御協力ありがとうございました。

○ 宮崎指導主事

委員の皆様ありがとうございました。最後に指導第一課長より、御挨拶申し上げます。

(挨拶)

○ 宮崎指導主事

長時間にわたり、委員の皆様大変ありがとうございました。

これで、令和5年度第2回広島市教科用図書採択審議会を閉会します。ありがとうございました。気を付けてお帰りください。